

# 教育センター事業案内

## 相談業務

教育相談 「不登校・友達関係・保護者の悩み等」

小林 統也 相談員

山口 真澄 相談員

まず、お電話を！ ☎0555 (83) 3022



## 代替職員の派遣

研修会・忌引・病気のための急なお休みなど、先生方が学校不在の時、  
古屋 ひとみ先生 を派遣します。

必要になったら早めに派遣申請を。

## 代替派遣

「体験活動」(センタープログラム)  
○地域を活かした体験活動  
・ 図工3・4年 木工の学習  
・ 社会科3年 役場見学  
・ 社会科4年 河口湖新倉堀抜

「研修」  
○郷土学習会(地域を知る)  
夏季休業中  
(新転入・採用教職員・他)  
○町単・期採・代替職員研修会  
五月～六月にかけて  
(三回実施)  
○支援員対象研修会  
○スキルアップ講座  
・ 外国語活動研修会

「教育に関するアンケート調査」  
○子ども・保護者・教職員を対象  
六月中旬にかけて実施

## 研修会等

「特別支援教育研究会」  
○特別支援コーディネーターの連携と研修  
「外国語教育研究会」  
○小学校英語科・英語活動についての研究  
「研究員会」(富士山学習研究会)  
○各学校より一名の協力者を得て、企画運営を行う。  
○富士山学習充実にむけての組織的研究  
「運営協議会」  
○教育センターの運営について、年二回検討を行う。

「ふじやま教材作成」  
○理科環境教育副読本改訂  
○社会科副読本改訂

「保・小・中連携及び高・大・関係機関との連携」  
○保小中連携連絡会議  
・担当者会議の開催  
○教育研究所連絡会議の開催  
「情報収集」  
・研究紀要  
・防災計画・教育課程  
・年間計画  
・学校要覧 等

「不審者対策」  
○各学校の行事や児童生徒の登下校に合わせ、コース等を決定し、青色灯パトロールカーで巡回します。

# 令和4年度 富士河口湖町総合教育会議資料

富士河口湖町立教育センター  
所長 藤巻 桂吾

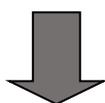
## 1 はじめに

※富士河口湖町立教育センター

○平成17年に開設

○目的：研修、研究、開発及び啓発を行い、教育振興、児童・生徒の健全な育成に寄与する。

○設置条例第3条を基本に、8項目の事業を展開



○平成27年度

- ・富士河口湖町中央公民館1階に移転
- ・今年度、7年目を迎えた



## 2 教育センター設置条例における事業について

第3条 教育センターは、次に掲げる事業を行う。

- (1) 教育に関する専門的、技術的事項の調査研究に関すること。
- (2) 教育関係職員の研修に関すること。
- (3) 教育に関する情報の収集、整理、保管及び活用に関すること。
- (4) 教育相談に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか富士河口湖町教育委員会が必要と認める事項。



具体的に8項目の取り組みを行っている

- ①教育に関する専門的、技術的事項の調査研究に関すること。
  - \* 理科・環境教育副読本、社会科副読本の作成（基本的には4年に一度改定）  
今年度は社会科副読本の改訂年にあたる
    - ・企画委員会の開催（代表7名） ・編集委員会（各校一人）
    - ・専門機関との連携（富士山科学研究所、町生涯学習課文化財担当、世界遺産センター、河口湖フィールドセンター、富士山自然保護センター等）
  - \* 富士山学習の充実（富士山科学研究所、富士山世界遺産センター等との連携）
    - ・「富士山の形と成り立ち」「河口湖新倉掘抜学習」
    - ・「防災教育プログラム化」
  - \* 新学習指導要領に向けての調査研究
    - ・「小学校外国語」「社会に開かれた教育課程」の実現のための支援

- ②学習開発に関すること。
- \* 地域を生かした体験活動（センターのプログラム）
    - ・「木工の学習」：図工3・4年生（西湖野鳥の森公園）（12回）
    - ・「役場見学」：社会科3年生（学校教育課を中心に各課と連携）（5回）
    - ・「河口湖新倉掘抜」：社会科4年生（生涯学習課文化財担当）（8回）
- ③教職員の研修に関すること。
- \* 町単・期採・代替職員等の研修会（3回）
  - \* 支援員対象研修会（1回）
  - \* 新転入・新採用教職員等の郷土学習会（夏季休業中：町内施設の見学・学習会）
  - \* スキルアップ講座（夏季休業中）
    - ・ 外国語研修会（⑤参照）（2回）
    - ・ ICT研修会（情報教育研修会1回 管理職研修2回 職員への研修4回）
- ④教育に関する情報の収集、整理、保管及び活用に関すること。
- \* 教育に関するアンケート調査「子どもの生活・意識アンケート」  
R4年度は「富士山と防災に関するアンケート」
  - \* 教育講演会の開催（教育三者共催で実施：町P連、郡P連、教育センター）  
新型コロナウイルス感染拡大防止のためR2年度から休止中
  - \* 教育センターだよりの発行（月2回）
- ⑤必要な研究組織の設置と運営に関すること。
- \* 運営協議会（教育センターの運営について、年に2回検討を行う）
  - \* 富士山学習研究会（5回）
    - ・ 各学校より1名の協力者を得て、企画運営を行う。
    - ・ 富士山学習の充実に向けての組織的研究
  - \* 特別支援教育研究会（特別支援コーディネーターの連携と研修）（1回）
  - \* 外国語教育研究会（2回）
    - ・ 小学校外国語科・外国語活動、「指導と評価の一体化」等についての研究
- ⑥教育相談に関すること。
- \* 令和3年度の相談件数：1359件（令和4年度10月現在775件）
    - ・ 町SSW、就学相談担当等との連携
    - ・ 学校と連携したケース会議の実施
    - ・ 保護者面談の実施
- ⑦幼保、小、中、高、大・関係機関等との連携に関すること。
- \* 保小中連携協議会の開催（今年度は書面開催）
  - \* 各保育所への訪問（情報交換）
  - \* 町SSW、就学相談員との連携
- ⑧その他目的達成に必要なこと。
- \* 代替職員の授業派遣：令和3年度：要請81回、派遣74回  
令和4年10月まで 要請58件、派遣47件
  - \* 不審者対策
    - ・ 青色灯パトロールカーの巡回時間帯、コース等各学校とりまとめ  
（町地域防災課との連携）

### 3 具体的な取り組み（特に力を入れている取組・連携等）

#### (1) 相談業務（教育相談）

##### ① 2021年（令和3年度）の状況について

不登校関係・・・1304件（21人）	友人関係・・・9件（4人）
心と身体相談関係・・・6件（5人）	問題行動・・・5件（3人）
性格・行動相談関係：10件（2人）	卒業生等・・・17件（5人）
学習相談・・・1件（1人）	家庭相談・・・1件（1人）
いじめ相談・・・2件（2人）	先生との関係：2件（1人）
進路相談・・・2件（2人）	

合計：1359件

##### ② 2022年（令和4年4月～10月まで）の状況について

不登校関係・・・286件（22人）	問題行動・・・3件（3人）
性格・行動相談関係・・・4件（1人）	卒業生等・・・66件（7人）
親子関係・・・5件（1人）	家庭相談・・・1件（1人）
いじめ相談・・・2件（1人）	
就学・進学相談・・・1件（1人）	

合計：775件

##### ③ 11月現在までに10名が通所（1年：2名、2年：4名、3年：4名）

※学校と相談を密にして対応していく。（子供を中心に据えて考えていく）

※あくまでも、イニシアチブ（主導権）は学校にある。教育センターは、相談・支援が役目（学校と家庭をつないでいる。）

※専門機関との連携（町就学支援員、SSW、町子育て支援課等）

※ケース会議（支援会議）への参加（必要に応じて）

※保護者相談（子どもの状況、進路等、情報共有、同じベクトルで支援）

#### (2) 富士山学習（防災教育）の充実 ～専門機関との連携について～

- ① 町立教育センター研究員会（富士山学習研究会）について
- ② 防災に関する授業研究の実施（河口小学校）
- ③ 富士山に関する知識と防災アンケートの実施
- ④ ジュニア防災士講座の実施について
- ⑤ 教頭会との連携（災害に関する危機管理マニュアル・引き渡し訓練実施と見直し）

##### ①町立教育センター研究員会（富士山学習研究会）について（研究員は各校1名：12名）

※研究のテーマ

- ・世界文化遺産である「富士山」を児童生徒に伝えていくための授業実践をどう進めるか

◎富士山学習研究会で、特に中心として取り組んでいく内容について

※防災教育のプログラム化について（3年計画でのプログラム化）

①指導案の検討（令和2年度）

②各学校での授業実施及び、教育課程への位置づけについて検討（令和3・4年度）

\*教育課程への位置づけについての検討（4年：自然災害 5年：水害 6年：火山）

\*将来を見通した、富士山防災についてどう考えていくか

◎年間5回の研究員会（学習会の開催）

※関係機関の積極的な活用

山梨県富士山科学研究所



山梨県富士山世界遺産センター



町役場地域防災課

ケーブルテレビ河口湖

② 河口小学校で防災に関する授業研究の実施

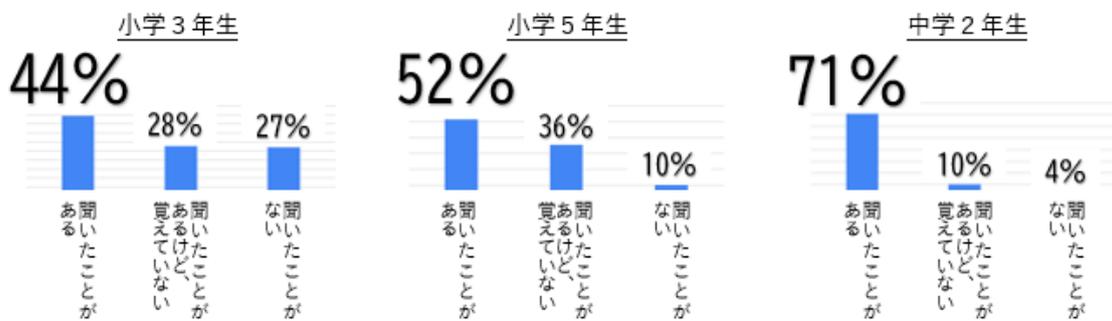


- ・映像や資料を通して足和田災害の起こった根場地区と同様、河口地区も土石流災害が起こる可能性があることを学びました。また実験を通して、火山灰が降った後は土石流が発生しやすくなることを学びました。地域防災課の担当者からは、土砂災害から身を守るために必要な「知ること」や「備えること」のポイントを教わりました。

### ③「富士山と防災についてのアンケート」調査

町内の子どもたちの富士山に関する知識と防災についての意識を把握するために実施しました。防災教育のプログラム化の3年目にあたり、これまでの取り組みの成果と課題を把握するために、一昨年度に実施したアンケートと同じ項目とすることで、2年前との比較を試みました。また、中学校においては全ての学年で実施することとし、富士山や防災に対する意識が3年間でどのように変わるのか数値で把握することとしました。町内の小学校3年生、5年生および中学1・2・3年生を対象に調査しました。

#### 富士山が噴火したときどうすればよいか聞いたことがあるか

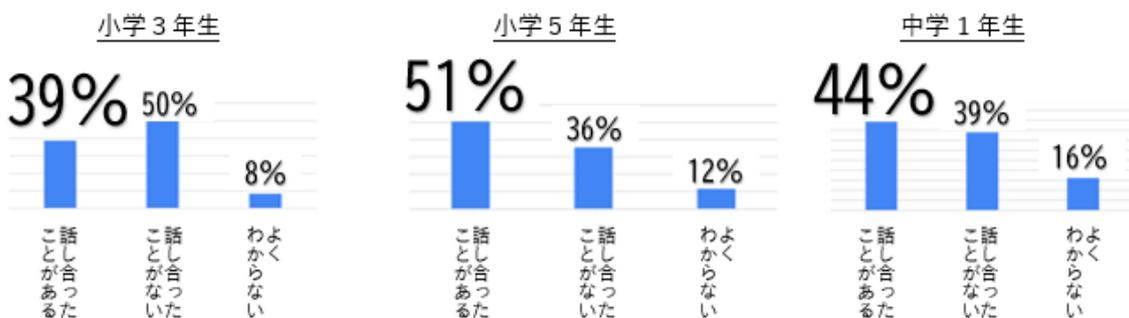


※聞いたことがあると回答した児童生徒の割合は学年が上がるにつれ増加



※各学校の富士山学習で噴火について学んでいることの表れ。

#### 富士山が噴火したときのことについて家族で話し合ったことがあるか



※家族で話し合ったことがあると回答した児童生徒はおよそ半数程度



※今後、防災教育プログラムを学校、家庭、町全体で計画的に取り入れていくことが課題

④ ジュニア防災士講座の実施について（コロナ感染拡大により中止）

\*講師として参加する予定だった方々

【町地域防災課長・係長・職員、ケーブルテレビ河口湖、町防災士（町議会議員2名含む）、山梨県立富士山科学研究所研究員、教頭会事務局、町立教育センター職員】



45名一人一人に届けた配付物

- ・防災についての講義資料
- ・防災マップづくりのテキスト
- ・自宅周辺の地図(2種類)
- ・自由研究のまとめ方
- ・溶岩流ってどう流れるの？
- ・溶岩流ドリルマップ
- ・溶岩流ハザードマップ
- ・備蓄食料（ご飯2種類とパン）
- ・保存水
- ・ハンドソープ
- ・手指消毒用ジェル
- ・絆創膏 ・ボールペン2本

〇スケジュール	
09:30	集合・開校式
10:00	防災についての講座
11:00	休憩
11:15	防災マップ作り（資料集め）
12:00	備蓄食料体験
13:00	防災マップ作り（マップ作り）
14:30	成果発表
15:00	終了

※夏休みの宿題提出人数：自由研究（防災について、防災マップづくり等）

- ・講座出席予定数45名中 ⇒ 6名が各学校へ提出
- ・参加者以外の自由研究も含め15名がふるさと山梨郷土学習コンクールに出展 ⇒1名入賞 2校が学校奨励賞（小立小・湖北中）

※町役場で防災自由研究作品展を開催

11月2日（水）～30日（水）



## ⑤ 教頭会との連携

(災害に関する危機管理マニュアルの見直し、中学校区での訓練の実施と見直し)

### 1) 災害に関する危機管理マニュアルの見直し(富士山科学研究所)

#### 目的

- 町内(鳴沢村も含む)の小中学校で統一した対応がとれるような計画とする。また、統一することによって、引き渡しが一元的に行えるようにする。
- 学校が立地する地域を考慮した計画とする。
- 対応フローにより、職員の対応が分かりやすいものとする。
- ”空振りではなく、素振り”という考え方を基に避難スイッチの感度を高く持つとともに、災害が発生しなかった場合、訓練や確認が行えたという考え方で対応を行う。
- 気象災害・土砂災害については、児童や生徒の身に危険が及ぶ前にできるだけ事前に対応を行う。
- 地震災害のように突発的に発生する災害に対しては、被害を軽減することと2次災害への対応を行う。
- 火山災害のように発生や収束の予測が難しい現象については、安全側の判断が行えるような対応を行う。



今年度はマニュアル統一の取り組みを初めて2年目となる。基本はそろえつつも各校の立地する環境によって独自の対応が必要な部分がある。今年度は中学校区ごとに相談する機会を設け、学校に応じたマニュアルへの改訂をすすめた。

### 2) 勝山中学校区での引き渡し訓練の実施と見直し(2022年5月27日)

これまで各学校で校庭に集まって引渡し訓練を実施していたが、もう少し実践的な形で、中学校区(1中学校、3小学校+2保育所)同時に訓練を実施。情報連絡に町の防災アプリとデジタル行政無線を活用。勝山小と勝山中、小学校と保育所が連携した引渡し訓練は実施経験あり。



## 引渡しの様子

4校(1中学、3小学校)で校舎内での引き渡しを実施



- 校舎の動線を一方通行にして、混雑の対応
- 火口に近い小学校では、ヘルメットを着用
- 引渡しカードの使用。

## デジタル行政無線を活用した情報連絡 (災害時に有効な通信手段の確認)



### 中学校に引き渡し完了の連絡に使用

#### 訓練から見えてきたこと

- 校舎内外で使用できる場所の確認(建物内で電波が悪いケースもあった)
- 現状ではデジタル無線は1対1、あるいは1から全体への連絡の2種類がある。
- 電源を事前に入れておくルール
- 相手の番号の確認
- 中学校区のグループ通話や学校間だけのグループ設定があれば、便利
- 引き渡し時に避難場所などの情報提供在り方
- 引き渡した後、学校をどう運営するか

### (3) ケーブルテレビ河口湖との連携

- ①ドローン空撮ビデオの活用
- ②西湖根場地区ドローン空撮ビデオの制作
- ③社会科副読本〔学校周辺の様子画像提供〕

#### ① ドローン空撮ビデオの活用

昨年度「ケーブルテレビ河口湖」の協力により町内各小学校周辺地域の動画を DVD にまとめた「ドローン空撮ビデオ」を制作しました。地域学習にとって非常に効果的な教材ができました。これをより活用するために、今年度は教室の PC から簡単に映像にアクセスできるよう YouTube 上に限定公開することができました。

#### ② 社会科副読本（ドローンによる空撮画像提供）

今年度改訂された『社会科副読本～わたしたちのきょうど～』でも、学校周辺の様子を説明する資料として掲載しました。

#### ③ 西湖根場地区ドローン空撮ビデオの制作

今年度、新たに西湖根場地区のドローン空撮ビデオを「ケーブルテレビ河口湖」の協力により作成しました。防災教育で足和田災害を取り上げるにあたり、昨年度作成した各小学校周辺のドローン空撮ビデオとあわせてつかうことで、子ども達は自分の通っている学校周辺と足和田災害が起こった西湖根場地区周辺を比較することができるようになりました。この2種類のビデオを使って、今年度は学区内に土石流災害警戒区域のある町内全ての小学校で、防災の授業を実施します。（5分：DVD）



西湖根場地区ドローン空撮ビデオ

YouTube に限定公開されているドローン空撮ビデオ



まちの様子を表すドローン画像（左：船津地区 右 富士ヶ嶺地区）

## 5 おわりに

平成 17 年に開設された教育センターは、平成 27 年度に中央公民館へと移転し、他機関と連携しながら活動を行ってきた。開設以来の 18 年間、設置条例第 3 条に定められた 5 つの内容について、その時々の教育課題に対応しながら積み重ねられてきた取り組みが 8 つの項目の中で充実し、今のセンターの事業を形作っている。

今年度も当初は昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響で事業や活動が制限される中でのスタートとなったが、コロナ禍 3 年目の今年度は感染対策を十分整えた上で、学力充実や新しい教育課題に対応するために、資質向上を目指す教職員の研究会をほぼ予定通り開催することができた。

不登校をはじめとする学校不適応を示す子どもたちへの居場所づくりにおいては、当該生徒の所属する学校と連携をとり対応する体制を引き続き構築することができており、生徒を中心においた学習支援や学校復帰に向けての支援、教育に関する様々な悩みへの教育相談等が実施されている。

社会科副読本の改訂年度にあたる今年度は年間を通して編集作業が行われた。企画委員会を中心に昨年度から改訂作業を進めてきた。5 回の編集会議を経て刊行の予定である。

この 3 年間は防災教育の充実を重点項目として事業に取り組んできた。外部講師と連携した教育プログラムの作成を行い、それを各校の教育課程へ位置づけていくことで、今後も継続して防災について学ぶ機会を提供できる見通しをつけることができた。

新学習指導要領の実施による新たな教育課題として、教育の ICT 化や小学校での英語科導入がある。GIGA スクール構想により児童生徒一人一台ずつ配付された端末の利活用については、町全体で取り組みを進めているところであるが、センターでも端末を利用して調査研究を行い教職員の負担を軽減しながらこれまでよりも短時間で結果をまとめ公表できた。町の小中学校に勤務している教職員への ICT 研修についても、計画的、継続的に進めるために今後学校教育課と連携しながら取り組んでいる。

小学校英語科については、山梨県から研究指定を受けている小立小学校や河口湖南中学校の公開研究会に参加し、両校の研究の成果から学ぶことができた。英語支援員や ALT、英語専科教員の日々の努力により、どの学校でも児童が生き生きと英語を学んでいる。

学校の多忙化改善に向けセンターがどう関われるかは活動の重要な視点である。担任不在時の派遣業務はその筆頭である。学校同様に、センターでも事業実施にあたって、様々な専門家、専門機関、教職員 OB と連携している。研修会の講師として教職員に指導するほか、近年の富士山学習や体験プログラムでも教材の提供者として、またゲストティーチャーとして授業づくりに直接参加いただくことにより、学校の負担を軽減しながら、子ども達により良い学習の機会を提供することがかなっている。3 年ぶりに実施した長期休業期間中の学習応援教室には山梨大学生による学習ボランティアも活用することができた。

これまで継続してきた事業の充実に加え、今日的な課題への対応としての新たな事業や町教委からの要請による業務等が加わり、これからを見据えた教育センター自身の業務の精選と再構築も大きな課題となっている。今後も、教育センターとして何を行うことが児童・生徒にとって必要かを大前提とし、富士河口湖町の教育課題や学校のニーズに応えた事業を行い、現場に生かす教育センターを目指し取り組みたい。

# 2021年

富士河口湖町立教育センター

## 1 内容別相談件数

項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
発達相談	身体発達													0
	言葉の遅れ													0
	知的遅れ													0
	その他													0
学習相談	学習の遅れ													0
	学習障害													0
	その他				1									1
性格・行動相談	乱暴・反抗・問題行動		1		1	1				1	1			5
	不登校・不登園	83	99	121	102	58	120	151	179	159	92	62	78	1304
	友人関係	6			3									9
	いじめ						1				1			2
	性格													0
	先生との関係								1	1				2
	その他		3					7						10
心と身体相談	情緒・緘黙			1										1
	弱視・難聴													0
	肢体不自由													0
	精神的							1		1				2
	その他	3												3
進路相談	就学・進学								1	1				2
	職業													0
	その他													0
家庭相談	親子関係													0
	子育て・しつけ					1								1
	金銭面													0
	その他													0
その他	中学卒業後	3	1		2	1	3	2	2	2		1		17
	その他													0
総相談件数合計(のべ)		95	104	122	109	61	124	160	184	164	95	63	78	1359

## 2 月別相談件数

電話相談(実数)	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	4
電話相談(のべ)	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	4
来所相談(実数)	15	11	11	16	14	14	18	21	19	15	13	14	181
来所相談(のべ)	95	104	122	109	59	124	160	184	163	95	63	72	1350
訪問相談(実数)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
訪問相談(のべ)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
総相談件数(実数)	15	11	9	16	15	14	18	21	20	16	13	15	183
総相談件数(のべ)	95	104	122	109	61	124	160	184	164	95	63	78	1359

2022年

富士河口湖町立教育センター

1 内容別相談件数

項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
発達相談	身体発達													0
	言葉の遅れ													0
	知的遅れ													0
	その他													0
学習相談	学習の遅れ													0
	学習障害													0
	その他													0
性格・行動相談	乱暴・反抗・問題行動			1				2						3
	不登校・不登園	43	60	57	27	13	42	44						286
	友人関係													0
	いじめ						1	1						2
	性格													0
	先生との関係													0
	その他	2	1	1										4
心と身体相談	情緒・緘黙													0
	弱視・難聴													0
	肢体不自由													0
	精神的													0
	その他													0
進路相談	就学・進学			1										1
	職業													0
	その他													0
家庭相談	親子関係	1		1		1	1	1						5
	子育て・しつけ													0
	金銭面													0
	その他													0
その他	中学卒業後	6	11	12	11	8	13	5						66
	その他													0
総相談件数合計(のべ)		52	72	73	38	22	57	53						367

2 月別相談件数

電話相談(実数)	0	0	0	0	0	0	1							1
電話相談(のべ)	0	0	0	0	0	0	1							1
来所相談(実数)	14	11	19	9	8	14	13							88
来所相談(のべ)	52	72	68	38	22	48	51							351
訪問相談(実数)	0	0	0	0	0	0	1							1
訪問相談(のべ)	0	0	0	0	0	0	1							1
総相談件数(実数)	14	10	19	9	8	14	15							89
総相談件数(のべ)	52	72	73	38	22	57	53							367